

## 2024年度 自己点検・自己評価及び学校関係者評価結果

■自己点検・自己評価結果の評価点について

(1) 自己点検・自己評価委員が4段階で評価した点数の合計を評価者数で除した平均値

(2) 4段階評価【評価基準点 適切⇒4 ほぼ適切⇒3 やや不適切⇒2 不適切⇒1】

大項目	評価点	中項目	二次評価点	評価項目	一次評価点	自己点検・自己評価結果	学校関係者評価委員会の評価
I 教育理念・目標	3.6	1 教育理念・目標	3.6	1)教育理念・教育目的・卒業時に期待する学生像(育成人材像)を明文化しているか。	3.8	2021年に教育理念を「看護職の育成により地域に貢献する」へと変更し、オープンキャンパス等の際には説明を行っているほか、学校パンフレット等にも明記している。 2023年度には、卒業生記念品として寄贈された教育理念が書かれたプレートに正面玄関入口に設置している。	4年前に変更された「看護職の育成により地域に貢献する」という教育理念の達成度にも関わるが、配布された資料によると、2024年度卒業生の小田原市・下郡3町の病院への就職者が前年度より10名増えており、これは教員の先生方の日頃の努力の成果が現れたものだと考える。
				2)学校における看護教育の特色は明確であるか。	4.0	「看護職の育成により地域に貢献する」という教育理念の達成に向け、カリキュラムや教育指導並びに環境設備の整備を行っている。	
				3)教職員は、教育理念・教育目的・育成人材像について認識し、努力しているか。	3.5	様々な活動も教育理念・教育目標・育成人材像を踏まえたものに努め、今後さらに推進を図る。	
				4)教育理念・教育目的・育成人材像・特色などは学生に浸透しているか。	3.0	新入生には新入生オリエンテーション、保護者には入学時保護者説明会で説明し浸透を図っている。さらに2・3年生にも4月に改めて説明している。	
				5)教育理念・教育目的は定期的に見直されているか。	3.5	2022年度からの新カリキュラム実施に合わせて、教育理念・目的・目標・卒業時に期待する学生像の整合性を検討し、将来の看護職に求められる、時代に即した教育理念・教育目標に見直しを行った。	
II 学校運営	3.4	2 組織体制	3.3	6)教育目的に沿った運営方針のもとに目標を明確化し運営しているか。	3.9	年度初めに当該年度の「学校経営方針」を教員に提示することにより、各担任や各看護学担当、係が作成する教育計画へ反映させるとともに、年間の取組み結果については年度末に評価している。	育児・介護休業法等の改正に伴う就業規則等の見直しができていること、理由を確認したところ、「医師会内に他にもいくつかの事業所があり、統一して改正する必要があることから、医師会の事務局に働きかけているが、なかなか進まない。」との回答であった。 25年度は、必要な規則の改正が実現できるように、しっかりと努力していただきたい。
				7)学校運営会議・教職員会議などを定期的に開催しているか。	3.8	運営会議は年間5回開催し、予算・決算・入試判定、その他、運営の重要事項等を協議し学校運営の基本的事項の決定を行った。教職員会議は年間5回開催し、学校行事や学校運営会議事項の協議と連絡調整を行った。	
				8)教務および事務の組織を整備し、業務分掌は明確になっているか。	2.9	2024年度末に「おだわら看護専門学校業務の組織図」を作成し、業務の明確化を図ったうえで、2025年度の業務を開始した。	
				9)業務の効率化を行っているか。	3.0	受験者数の減少、定員割れの等の問題に直面する中で、コミュニケーションや学習面、生活面等で課題を抱える学生が増えている。看護教員は、個々の学生に合わせた丁寧な対応が求められる場面が増加している。業務の効率化を図り、学生と関わる時間を確保するため、DX推進委員会を発足した。本校の課題であったデジタル部門強化のため、情報支援員を非常勤採用し、DXを推進する3か年計画を立案した。	
				10)就業規則等の諸規程は適切に整備されているか。	2.8	懸案であった完全週休2日制が令和7年度から実施されたことに伴い、1日の勤務時間が7時間から7時間30分に変更されたが、育児・介護休業法等の改正に伴う就業規則等の見直しが必要である。	
				11)法令等を遵守し、適正な運営をしているか。	3.1	2025年度に向けて、「ハラスメント等防止に関する規程」「障害ある学生に対する支援規程」「懲戒規程」を新たに定め諸規程の整備を行った。また、事故対応時の対応等の方法を定め、学校安全の管理体制を強化した。	
				12)個人情報保護法は遵守されているか。	4.0	教職員及び学生の個人情報に関して、小田原医師会立看護学校個人情報取扱規則並びにおだわら看護専門学校個人情報保護方針を定め、個人情報保護管理者である副校長、事務長を中心に適切な管理を行った。	

大項目	評価点	中項目	二次評価点	評価項目	一次評価点	自己点検・自己評価結果	学校関係者評価委員会の評価
Ⅱ 学校運営	3.4	自己点検・自己評価体制	3	13)学校の情報公開体制が整備されているか(自己評価結果の公開)。	3.5	情報公開体制は、学校評価も含め自己評価についての規程を整備して取り組んでいる。事業実施結果に基づき自己評価を行い、その結果を学校評価と合わせてホームページで公開した。	学生の学校評価アンケートの自由記載欄に、「ロッカーが狭かった。」「ロッカーが混雑するので学年ごとではなく1～3年生をまぜてバラバラの前のスタイルに戻してほしい」との記載が複数あり、学校側に確認したところ、「以前は、ロッカー室が混雑しないように、隣同士のロッカーの学年を変えていたが、ロッカー内の紛失物が増えたことから、学年ごと、クラスごとにまとめることにより、例えば、ロッカーに鍵がかかっていることなども注意できるようにした。その結果、紛失物はなくなった。」との説明があった。 また、「図書室を18時以降ももう少し使いたい。」という記載については、学校側から「18時以降まで使用できるようにするためには、教職員が当番で見なければならなくなるが、現状では難しい。」との説明があった。 いずれも説明内容は理解できるものであったが、「自宅でゆっくり学習する環境が整っていない学生のために、短時間で良いので、図書室を使用できるような仕組みを今後検討してほしい。」との委員からの要望があった。
			3.3	14)教職員に対して自己点検・自己評価の実施及び問題点の改善に努めているか。	2.9	教職員代表として、副校長をはじめとした5名の自己点検・自己評価委員によって委員会を組織して自己点検・自己評価に取り組み、その実施結果に基づく問題点の抽出と改善策を協議し、改善を進めた。	
				15)外部関係者からの評価を取りいれているか。	3.8	自己点検・自己評価の結果を、外部関係者による学校関係者評価委員会に諮り学校関係者評価を実施して、ホームページで公開した。	
				16)学校運営に学生の意見が反映されるように努めているか。	3.0	学生の面談や日常活動の中で、学校運営に関する意見・要望が出された場合は、把握した教員が教務主任、副校長、事務長など学校管理に係る役職者に報告し、学校全体として状況を把握する事に努めている。学校運営に関するアンケートを取り纏め、その結果を全教職員にフィードバックした。	
		財政基盤	4	17)事業報告を適時行い、会計監査が行われているか。	4.0	看護学校運営委員会及び設置者の理事会及び総会に事業報告・会計報告を行うと共に、設置者である小田原医師会の監事による監査を受け、理事会の議決後に定期総会で承認を受けるなど適切に対応した。	欠員の増大に伴い、膨大な赤字が累積している現状を打開するために、令和9年度から新入生の入学定員を従来の80名から40名に半減するという説明があった。 現状でも看護師の確保に苦労している地域の病院は、おだわら看護専門学校学校の定員減の影響を懸念しているとのことだが、現状では、県西地域からの入学者が4割程度、地域の病院への就職者は5割程度となっているので、今後は、地域からの入学者の割合を増やすことにより、地域の病院への就職者の割合を増やす方向で取り組んで行くことを期待したい。
				18)中長期的に学校の財務基盤は安定しているか。	2.6	入学者減や退学者増による定員割れの影響が顕在化してきている。小田原市補助金及び神奈川県補助金、その他の補助金等は安定的に確保されているが財政基盤の安定化に向けて運営体制の適正化に向けた検討を進めている。	
				19)財務状況の情報を公開する体制整備はできているか。	3.3	設置者である小田原医師会の財務状況については、貸借対照表をホームページで公開している。その他の財務状況についても本校で公表し、閲覧が可能な対応・体制を引き続き整えるよう努めた。	
		5 (施設・設備 環境整備)	3.6	20)施設・設備は、教育上必要な対応ができるよう整備しているか。	3.4	2014年4月に新築校舎に移転したことから、教育上の必要な対応は十分できるようになっている。備品及び機械器具・標本模型は台帳により管理しており、法令上点検が定められている設備については定期点検を実施している。	施設・設備の管理や点検、図書室の管理等は適切に行われているものとする。
				21)図書室は適切に整備されているか。	3.9	非常勤司書を配置して必要図書を配架し、図書目録作成、蔵書点検、新規図書の購入等、適切に図書の整備並びに管理を行った。2020年4月から図書管理システムを導入し、貸出管理をパソコンにて学生が自ら処理出来るシステムにより利用頻度の向上に努めた。 蔵書数:9415冊(2024年度末現在)	
		安全・防災管理	3.4	22)消防計画、学校安全計画等は適切に整備されているか(防災管理規定の整備・地震・火災発生時の対応マニュアルなどの整備)。	3.0	2024年度に自然災害発生時における事業継続計画(BCP)を作成し教職員に周知した。消防計画は2014年の新築移転と共に改正し、小田原市消防本部に届出を行っている。	事業継続計画(BCP)の作成・周知や避難、消火等を含めた防災訓練への参加、校内の危険個所の点検など、安全・防災管理については適切に行われているものとする。
				23)火災などの予防及び防災訓練など、防災教育を実施しているか。	3.6	8月30日に予定していた本校の防災訓練は、台風10号に伴う大雨のため中止となった。9月19日と3月17日に実施された医療福祉会館の総合防災訓練に参加し、避難訓練、消火訓練等を実施した。 2年生の災害看護の授業の中で、グループワークとして、減災・防災に向けて本校の危険個所を点検し、その結果を「学校内の危険な所・物品」として取りまとめたうえで、必要対応を行った。	
				24)防犯(不法侵入など)に対する整備は行っているか。	3.6	校舎の玄関は電気錠で管理、エレベーターは通常は停止しない設定等により、構造的に不審者の侵入ができないようになっている。玄関の自動扉は学生の出入りの際、学生以外(不審者等)も出入りの可能性があるため、その防止策として窓口となる事務室でセキュリティの解除等、十分注意を払い入校者を厳格に管理した。2024年度に不審者の侵入はなかった。	

大項目	評価点	中項目	二次評価点	評価項目	一次評価点	自己点検・自己評価結果	学校関係者評価委員会の評価
Ⅲ 教育活動	3.5	7 学修成果	3.9	25)卒業時の到達状況を分析しているか。	3.5	年度末に卒業期の目標に沿って評価した。目標のほぼ9割以上を達成したと学生は評価していた。しかし、看護技術経験の到達度は10%が努力が必要と回答している。技術到達度に達した項目は、71項目中14項目であり、看護技術教育に課題が残った。	国家試験については、昨年度の不合格者を含めて全員合格したというの は、本当に素晴らしいことだと思う。日常的な単位取得に向けたきめ細かい 指導や、理解が不十分な学生に対する個別指導など、先生方が頑張った成 果だと評価できる。
				26)資格取得率(国家試験)・進学状況の向上に向けた取り組みを図っているか。	4.0	学生個々の学力に応じた個別支援を行った結果、第114回看護師国家試験は昨年度の不合格者を含めて全員合格した。助産師学校への進学希望者1名、保健師学校への進学希望者1名が無事進学した。	
				27)中途退学の原因・実情を適切に把握しているか。	4.0	2024年度は13名の退学があった(前年度比2名減)。退学者は減少したが、適性の問題による実習不合格や学力不足だけでなく、低学年は自分に合った進路が看護師ではなかった、という理由が多い。また、入学時よりメンタル面での問題を抱えている学生が、最終学年になり退学に至るケースも	
				28)退学率の低減に向けた取り組みを図っているか。	4.0	昨年同様、1年生は、自分に合った進路が看護師ではなかったという理由が多かった。2、3年生では、入学時よりメンタル面での問題を抱えて入学した学生の退学が多かった。メンタル対応としては、入学後、保護者との連携も図り、心療内科への受診を勧めている。	
				29)学生の単位取得に向けた支援を実施しているか。	4.0	1年生、2年生は、学習支援など細やかな指導を実施することにより、全て必要な単位を修得し、進級できた。3年生は、2名の学生が実習での単位を修得できず、卒業に至らなかった。うち、1名の学生は、入学時より、時間管理などでできず、発達障害傾向が疑われていたことから、精神科への受診を勧めた。	
				30)成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。	4.0	成績評価については、シラバスに評価方法を記載し、単位認定のための評価基準と方法は学則及び規定に明文化している。実習評価についても全領域で統一した形式としている。	
	3.5	8 カリキュラム・授業方法	3.6	31)カリキュラムは教育理念・目的・目標が反映され、効果的に構成されているか。	3.0	前期終了時にカリキュラム会議を行い、教育理念・教育目標に沿ったカリキュラム構成であることを確認した。今後は、運営する中で科目の連動性や学習効果を踏まえて、課題を明確化していく。	以下のとおりいくつかの課題が確認できたので、課題解決に向けた努力を継続してほしい。  ①学生の学習力が低下しているなかで、能力に合わせた指導方法をさらに工夫していく必要がある。 ②授業評価システムで学生の回答数を増やすために、QRコードを教室に貼ったり、シラバスに貼ったりしていると工夫しているが、なかなか回答数が上がっていない。 ③外部の講師に看護学生向けのわかりやすい視点での授業をお願いしていく必要がある。
				32)指定規則に合致した科目と単位・時間を設定しているか。	4.0	第5次改正カリキュラムのガイドラインに沿った指定規則に基づいた科目及び単位時間数となっている。	
				33)定期的なカリキュラムの見直しがされているか。	3.5	今年度は、各領域ごとのカリキュラムの評価だけでなく、全体の見直しを行った。	
				34)テキストや教材は適切なものを選定しているか。	3.9	新入生からメディカ出版の教科書に変更した。講師からは内容が薄いとの声も上がっているが、電子テキストに変更となるためメディカ出版で続行する。	
				35)授業の評価が適切にされているか。	3.1	授業評価システムを立ち上げたが、上手く運営できず、学生の回答数が少ないため有効な評価が得られなかった。次年度はシステムの改善を行う。	
				36)実践的な看護教育を体系的(講義・演習・実習)に位置付けているか。	3.1	各科目で演習時間を設けているが、演習に入れる教員数の不足が課題である。	
				37)講師の資格要件を明示し、要件は満たしているか。	3.9	教員及び外部講師はすべて有資格者である。	
				38)効果的に授業運営を図るため、適切に時間割を調整しているか。	3.9	各学年担任と再履修学生担当が入り、月に1度、翌月の時間割の調整を行っている。外部講師の急な休講などが生じると調整が困難であるが、専任教員の講義時間を変更し対応している。	
				39)シラバスが作成され学生に配布されているか。	4.0	年度ごとに作成し該当学生に配布している。	
				40)学生便覧は内容、構成が工夫して作成されているか。	3.6	必要時に学生便覧を用いながら学生指導を行っているが、学生にとって活用しやすいものにさらに変更していく。	
				41)年度初めにカリキュラムガイダンスを行っているか。	4.0	年度の始めに、各担任から教育計画とともに説明している。	
				42)授業内容や指導方法が学生レベルにあうよう工夫・改善しているか。	3.0	学生の学習力の低下傾向があるため、より分かりやすい教科書の採用を協議した結果、電子テキスト採用を機会に医学書院からメディカ出版に変更した。入学前から学習習慣が身につけていない学生に対し、学習支援を実施しているが、なかなか内発的動機づけにつながらないケースも多い。	



大項目	評価点	中項目	二次評価点	評価項目	一次評価点	自己点検・自己評価結果	学校関係者評価委員会の評価
Ⅲ 教育活動	9 教職員育成・教育推進活動	2.9	43)人材育成目標に向け授業を行うことができる要因を備えた教員確保に努めている	3.0	本校だけでなく、看護専門学校の教員不足は、全国的な問題となっている。退職する教員があっても、その領域を担当できる教員の確保や実力を備えた教員をすぐに確保することは困難である。定年退職に伴う教員の補充については計画的に進めていく。	教員の退職に伴い、教員経験のない人を補充せざるを得なかったが、教員として独り立ちさせるためには、先輩教員が他の時間を削って、一から十まで教えていく必要があり、また、独り立ちするまでには年単位の時間がかかるので、学校全体の教育力としては、落ちている現状であるとのことであった。 教員の確保と新人教員の育成は、とても難しいことだと思うが、教育の質を維持していくために、組織全体でしっかりと対応していったほしい。	
			44)専任教員一人あたりの担当科目時間数は適切であり、授業準備のための時間がとれる体制を整えているか。	3.1	常勤専任教員の年間講義時間数は平均約68時間で前年度より増加した。加えて、年間通じて臨地実習での指導もある。各学年の3分の1程度は、生活指導や学習支援等が必要な学生であり、忙しさが倍増している。		
			45)学校の抱えている課題を踏まえた職場内研修を行っているか。	2.9	発達障害を疑う学生の指導に戸惑うことが多く、神奈川県看護師等養成機関連絡協議会主催の「臨地実習における合理的配慮」研修に参加した。また電子テキスト導入に向けて、メディカ出版の教科書の使い方の研修を行った。		
			46)教員の授業を相互に参観、講評できる制度がある	2.8	教育実習生は講義の参観を行ったが、教員間では実施できなかった。		
		10 卒業生支援	3.0	47)卒業生の就業先の情報交換などを行い、問題を明確化しているか。	3.0	卒業後に本校を訪ねてくる卒業生や、小田原市医師会内の病院や実習施設に就職した卒業生の状況は把握している。	卒業生の連絡先の情報を活用して、地域で活躍している卒業生を学校に呼び込んで学生を育てていくような仕組みができないかを検討していくため、まずは卒業生のニーズを把握していきたいとのことであった。 こうした仕組みができれば、地域の力で学生を育てていくということにもなるので、今後に期待したい。
				48)卒業後のキャリア形成を把握、支援しているか。	3.0	卒業後のキャリア形成については、通信制大学へ編入している卒業生のサポートやアドバイスを教員が個人的に実施したが、今後はシステム作りも検討していく。	
		11 臨地実習	3.6	49)実習要項は看護学ごとに作成しているか。	3.9	記載事項と内容の統一を図ったうえで、各領域のリーダーを中心に実習要項を作成している。また、3年間通して学ぶ目標に関しては各学年の到達度に合わせて評価を明確にしている。	実習の際に病院の指導者がいなかったこともあり、51)の評価点が下がったということであったが、看護師が逼迫している病院の現場で、どうしても指導者をたてられなかったのではないかと。 実習時のインシデント、アクシデントについて、「学生自身がヒヤットするような経験をする前に教員が手を出して防いしてしまうので、失敗から学ぶことが難しい。」ということであったが、先生方が良い実習をさせたい、良い経験をさせたいという思いを強く持って実習に臨んでいることがよくわかった。
				50)実習目標が達成されるよう実習環境整備が整備されているか。	3.1	各実習終了時には、その都度実習環境等に関して受入施設とすり合わせを行ったうえで評価を実施している。まだ、実習指導者講習会未受講の指導者が配置されている施設には、受講を推奨した。	
				51)実習指導者と教員の役割を明確にし、互いに協力し実習指導にあたる体制があるか。	3.0	教員と指導者の役割を明記した指導案を各領域ごとに見直し、同じ目標に向かって指導ができるように活用している。学生の評価を統一形式とし、学生、指導者、教員で共有化を図っている。学年末には、学生毎に評価表のデータ分析を行い、その結果を実習評価会を設けるとともに各施設に配布した。	
				52)実習時の患者への倫理的配慮を励行しているか。	3.9	実習前に個人情報の取扱いについて誓約書の記入を行い、その都度注意喚起している。各学年の事例を用いて指導を行うと共に個人情報やSNSの利用に関する取り組みを深めた。	
	53)実習時のインシデント、アクシデントを分析し、学生指導に生かしているか。			3.9	実習時に経験するヒヤリハットに関しては、その都度学生とタイムリーに振り返って学びにつなげている。年度末には集計をして実習施設と共有を図り今後の実習指導および学生の傾向について振り返るように時間を設けた。		
Ⅳ 学生支援	3.7 学生支援	12 学生支援	54)学生の安全管理(災害共済保険加入等)を行っているか。	3.9	総合補償制度Willに全学生が加入し、傷害・賠償・感染事故等のトラブルに対応する補償と学生の安全が図られるようにしている。また毎年、小田原警察署に自転車安全講習会を依頼し、自転車の事故防止に向けた講義を設けているが、更にインターネットトラブル等生活安全についての講義も取り入れた。	55)の保護者への情報提供については、学習面や健康面で気になった際には、早めに保護者と連絡を取ることで、連携体制を作っていくことができた、また、60)の行事については、委員会を立ち上げることで、計画の段階から教員と事務が連携できる仕組みを作ることにより、充実した行事となったということであり、いずれも評価できる。	
			55)保護者・保証人に、定期的に情報提供を行っているか。	4.0	夏季休業に入る前に実施した試験結果を、学生から保護者へ渡すよう配布している。年度末には学修記録を送付し、学習課題のある学生の保護者には来校または、電話で情報提供している。また、単位が取れなかった時や再試験回数が多い等問題発生時には、速やかに保護者へ連絡し、課題の共有を行っている。		
			56)課外活動に対する支援体制は整備しているか。	2.1	学生の課外活動に対するニーズはなく整備されていない。		
			57)学生の経済的側面に対する支援制度の周知を図っているか。	4.0	毎年、日本学生支援機構の奨学金制度の説明会を開催するとともに、各病院による奨学金制度の案内冊子を作成し配布している。また、奨学金の希望調査を年度初めに行っている。奨学金の案内冊子のほか専門実践教育訓練給付金制度について本校のホームページに掲載して周知に努めた。		

大項目	評価点	中項目	二次評価点	評価項目	一次評価点	自己点検・自己評価結果	学校関係者評価委員会の評価
V 学生の受け入れ	3.7	14 学生募集活動		58) スクールカウンセラーの配置など、学生の健康管理や学生相談に関する体制は整備しているか。	4.0	4月から12月までの金曜日の放課後にカウンセラーが来校しているが、学生の相談者はほとんどない。	
				59) 進学・就職に関する支援体制は整備されているか。	4.0	助産師学校や保健師学校への進学希望者に対して、面接指導などのサポートを行い、卒業生を含め助産師学校1名、保健師学校1名が進学できた。	
				60) 学校の行事について、適切な事後反省を行っているか。	4.0	行事に関して、事前の準備が重要と考え、関係する教職員で委員会を立ち上げて、漏れがないような仕組みを作った。	
				61) 学生のための福利厚生施設・設備は整っているか。	3.0	清涼飲料自動販売機、冷蔵庫、電子レンジ、流し台、電気ポットなどを設置しており、今年度は卒業記念品として、電子レンジ、電気ポットを新調した。またWi-Fi環境も整っている。	
			13 健康管理	62) 学生の健康管理を担う組織体制があるか。	4.0	組織体制としては、健康管理規程に基づき、健康管理担当としての学校医、副校長および保健担当教員が協力して任に当たった。4月には全教職員と全学生を対象に春季健康診断を行った。結果を学校医に報告し、「要精密検査」の学生には早期受診を促し、必要な治療に繋げていった。秋季には学内で、保健係を中心にして身長・体重・血圧・尿検査等の検査を行い、健康管理に役立てた。メンタル面の課題のある学生には「カウンセリングルーム」の利用も勧めていった。	健康管理については、定期健康診断及び要精密検査への対応、慢性疾患やメンタル課題を抱える学生への受診誘導や経過の把握等、教職員による適切な対応がなされている。
				63) インフルエンザ等感染予防対策がされているか。	4.0	インフルエンザに対しては、10月頃より各学年に説明を行い、ワクチン接種を推奨した。教職員も全員接種対象であり、接種を行った。小児感染症については、入学前より必要な接種を促し、入学後確認しながら、抗体を得られるように支援した。感染症については、担任と協力し、年間を通じて感染状況の把握に努めた。	
				64) 慢性疾患等のある学生に支援をしているか。	3.8	喘息や片頭痛、月経困難症などの持病に関し、症状に応じて、受診の促しや治療の継続をするように支援していった。担任とも協力して、学業が継続するように、受診日など事前にわかる場合は調整に協力した。	
				65) 健康管理に関する指導や啓蒙活動を実施しているか。	4.0	健康観察表は実習前2週間より記載し、確認していった。普段より感染症にかからないよう生活指導を行い、食事や睡眠に注意するよう促した。体調不良時は受診を促し報告まで聞き、生活改善に努めるよう関わった。	
				66) 高等学校等への情報提供などの取り組みを行っているか。	3.1	本校の教育理念の実現にむけて、県西地域の13校に、実績の高い県央地区1校・湘南地区1校を加え15校を訪問した。さらに静岡県東部地域の実績校1校を訪問した。高校内進路ガイダンスは、本校への入学実績や入学生の学修成果等を鑑み、3年生対象6校、2年生対象1校、1年生対象1校の依頼に応えた。また、昨年より依頼のある講師派遣1校を継続、本校への訪問希望1校の依頼に応えた。自宅から通学できる看護専門学校への進学を考える高校生が多い傾向から、地域とのつながりを重視した取り組みが大切であると考えている。	高等学校への情報提供やオープンキャンパス・学校見学会などできることをやったうえで、10回の入試を実施しても、受験者数が前年より21名減の85名であったというのは、18歳人口の減少、大学進学志望の高まりの中で看護専門学校の定員割れという全国的な状況を反映しているものと思われる。 こうした厳しい状況の中でも、2025年度の入試では、医療・福祉施設推薦選抜入試を新設するなど、少しでも入学者を増やそうと努力していることは評価できる。
				67) 学校説明会の内容(時期・方法等)は適切であるか。	4.0	オープンキャンパスは、4日間(計12回)昨年同様企画したが、8/16(83名予約)は台風にて中止となった。翌週8/19・21・23の3日間緊急で学校見学会(66名)を開催した。全体で197名(保護者119名)であり、昨年より47名減であった。個別の学校見学会は、9月から月1回4回開催し、19名+保護者3名であった。(前年比4名減)社会人見学会は、2回開催を計画したが、6/8(土)の予約者は1名で、当日は連絡なく来校しなかった。残り1回も予約者はなかった。2025年3月開催の新高校2,3年生対象の説明会は、32名(保護者24名)と前年より5名増加した。	
				68) 入学者選抜の時期、方針、方法は適切であるか。	4.0	2024年度も学生確保が困難な状況が予測されたため、一般Ⅲ期まで計10回の入試を実施した。受験者総数は、85名と前年より21名減であった。そのうち、66名を合格とし、64名が入学した。全国的な18歳人口の急激な減少だけでなく、県西地域の18歳人口数の少なさが大きく響いている。	
				69) 学生の受け入れ方針を明文化しているか。	4.0	本校の教育理念・目標を反映した学生募集のために、2020年度入試より求める学生像を明文化している。	
				70) 志願者状況、定員充足率を分析、評価しているか。	3.6	志願者、合格者、入学者の推移と傾向について、毎年評価を行っている。18歳人口の減少、大学進学志望の高まり等から、看護専門学校の定員割れは本校に限ったことではない。地方においては、募集停止、閉校も始まっている。数年前より社会人へシフトする計画を立てているが、様々な業界での人手不足や賃金見直しなどから、看護を目指す社会人も減少している。	

大項目	評価点	中項目	二次評価点	評価項目	一次評価点	自己点検・自己評価結果	学校関係者評価委員会の評価
				71)社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	3.4	既修得単位認定の規程を設けている。また、専門実践教育訓練給付制度の認定校としての体制も整備している。2024年度入試は3回に増やして実施した。結果として、64名中7名が社会人経験を経た学生、さらに1名は専門学校卒業見込で受験し入学した。(前年より2名増)	例年どおり募集要項・学校案内等を作成するとともに、進学情報サイトや地域コミュニティ紙も活用するなど広報活動に努力している。
		15 学生募集の広報	3.9	72)募集要項・学校案内を作成し、志願者に情報提供をしているか。	4.0	募集要項は昨年同様希望者に無償で配布している。学校案内は新カリ改正時(2022年から使用)に作成したものを配布している。	
				73)志願者が関心を持つ積極的な広報活動の実施をしているか。	3.8	広報については、進学情報サイト「マイナビ進学」「ベスト進学ネット」「リクルート」を3つを採用している。近隣については、地域型コミュニティ誌を通じて本校の周知を引き続き図った。タイムリーに情報発信できるようホームページをリニューアルし、2年目を迎えた。オープンキャンパス参加申込は、ほぼホームページが利用されており、本校の情報もホームページから得ていると回答する来校者が多い。	
Ⅵ 国際交流地域社会	3.4	16 国際交流	2.9	74)国際的な視野を広げるための授業科目を設定しているか。	4.0	「国際社会の理解」「国際看護」という科目を開講し、国際的な活動を知るきっかけづくりをした。	現状では、海外との交流が行えるシステムづくりはできていないということであるが、小田原市内の日本語学校等を通じた外国籍の人との交流会を2025年度に計画しているということなので、今後の展開に期待したい。
				75)海外との交流が行えるシステムづくりをしているか。	1.9	海外を理解する科目は設定しているが、システムづくりはできていない。	
		17 地域社会	3.7	76)学校の教育資源や施設を活用して社会貢献・地域貢献に努めているか。	3.9	年2回の学内における献血活動、中学生の職業体験、小学生対象の看護体験を実施した。	中学生の職業体験、小学生の看護体験を積極的に行うことにより、地域の人々に対して、おだわら看護専門学校の認知度を高め、ひいては将来的な受験者の確保につなげたいという強い思いを持ってこの事業を実施しているとのことであるが、将来に期待できる取組である。
				77)学生のボランティア活動の奨励、支援をしているか。	3.1	地域・在宅看護論Ⅰにおいて、1年生全員が講義の一環として地域の夏祭り等のイベント参加や清掃活動等のボランティア活動に参加した。また、3年生が神奈川看護学会のボランティアとして活動した。	
				78)教員は対外的に講師としての役割を果たし、活動しているか。	4.0	実践教育センターの「看護教育課程論演習」のアドバイザーとして教務主任を派遣した。また、教務主任は、神奈川県看護師等養成機関連絡協議会の理事として活動した。	
Ⅶ 研究・研修	3.1	18 研究・研修	3.1	79)教員が専門領域の臨地実習、研修に参加する体制を整えているか。	4.0	教員の希望する研修に参加できるよう予算を計上し参加を促した。実習は自分の専門領域を担当できている。	教員が希望する研修に参加できるようにしたほか、長期研修についても、ファーストレベル、医療安全管理者にそれぞれ1名ずつ参加するなど、人間的には厳しい中でも、教育力アップのための取り組みはしっかりと行われている。
				80)研究活動を教員相互で支援しあう環境があるか。	2.3	今年度は、研究活動ができなかった。	
				81)教員は年1回以上、自主的に研修に参加しているか。	3.0	教員のラダー(人材育成計画)に基づき、神奈川県立保健福祉大学実践教育センター 教員養成課程1名 ファーストレベル1名、医療安全管理者養成研修1名の長期研修に派遣した。研修参加には個人によって参加にばらつきがある。教育の質向上のため積極的に研究参加を促していく。	
まとめ							81項目にわたる評価項目の中で、昨年度と比較して、29項目の評価が上がり、27項目で下がっており、差し引きで評価が上がった方が2項目多かった。昨年度は、25項目の評価が上がり、32項目で下がっており、差し引きで評価が下がった方が7項目多かった。 この結果からは、学生が欠員となり、財政的にも赤字が拡大しているという厳しい運営状況のなかでも、全体的な事業の自己評価としては、肯定的に捉える方向に転換したものと受け止めることができるのではないかと考える。 今回のヒアリングの中でも、「教育の質を高めたい。」「おだわら看護専門学校に入りたいと言わせたい。」という意欲的な言葉を何度か聞いたが、先生方の教育にかける熱意には並々ならぬものがあり、国家試験の合格率が100%となったことも、ひとえに、先生方のたゆみなき努力の成果だと考える。 令和9年度から、入学定員を80名から40名に半減するということであり、今後、教職員の体制も変更していく必要があると思われるが、現在の高い教育レベルを引き続き維持していくことにより、「看護職の育成により地域貢献する」という教育理念が達成されるよう一層の努力を期待したい。